

上越市まちなか居住推進事業 【高田地区】 ニュースレター Vol.5

「まちなか居住推進事業」とは？

まちなかに“これからも住みたい”“新たに住みたい”“また訪れたい”と思う人が自然に集まるまちを目指す新しいまちづくりの取組です！

本紙やホームページを通じて、事業の取組状況を定期的にお知らせしています。

今回は、6月24日に開催した高田地区の25町内会長を対象とした報告会についてお知らせします。

内容

- ① モデル地区における取組
- ② 高田における今後のまちづくり ～まちなか居住のすすめ～
- ③ 令和4年度から取り組んでいること

① モデル地区（仲町6、本町6、本町7、大町5、西城町4）における取組



これまでに実施したワークショップの様子
仲町6、本町6、本町7、大町5、西城町4

住民 事業者 行政



協働

住民・事業者・行政が協力して
取り組んでいくことが大切です

報告会でいただいた主なご意見

Aさん：気づいていなかった「まちの良さ」が見えるようになった。まちづくりに対する意識も高まった。

Bさん：子育てするには便利だが、若い人たちが住む・Uターンするには、もっと働く場が必要である。

Cさん：元々雁木が残っているまちであり、住民同士が話し合いながら雁木を残せている。

Dさん：町内の道路が狭いので、幹線となる道路を作り、空き地の利活用につながるとよい。

Eさん：景観を統一したいが、費用がかなりかかるので、補助金のほかクラウドファンディングもしたい。

② 高田における今後のまちづくり ～まちなか居住のすすめ～

まちづくりの専門家として、本事業に助言等をいただいている埴 正浩（らち まさひろ）アドバイザーから講演

- ・ 城下町高田の雁木や町家は高田地区の個性であり、そこに魅力を感じて移住した人に、実際にインタビューもさせていただいた。
- ・ 雁木や町家の維持は大変ですが、使わなくなった建物を所有者が売却や賃貸することで、新たに住む人の増加につながります。
- ・ まちづくりは、行政だけでできることではなく、住民と事業者と行政が、協働で取り組むことが大切です。



事例紹介 長野市の善光寺周辺の取組「門前暮らし相談所」

- ・ 空き家見学会・相談会がこれまで120回以上開催され、まちづくり関係者をはじめ、地域のことを一番知っている町内会長が町内の空き家を案内している。
- ・ 門前を魅力だと感じる皆さんと楽しく暮らしたい、まち暮らしを楽しみたいがモットー。
- ・ 100軒以上が住まいや店舗に活用されている。



ゲストハウスやカフェ、雑貨店等として活用されている

③ 令和4年度から取り組んでいること（推進地区の認定・支援制度の活用）

市は、令和4年度から次の制度を創設しましたので、ご活用ください（令和4年度はモデル地区限定）

空き家の利活用を推進する取組

- 1 空き家マッチング制度
(空き家の所有者と利活用希望者の縁結びを市がお手伝い)
- 2 空き家の片付け支援
- 3 空き家の購入支援
- 4 空き家の賃貸用リフォーム支援
- 5 お試し居住家賃支援
- 6 空き店舗等の利活用支援



良好な住環境の整備・まちの魅力向上の取組

- 7 町家のリフォーム支援
 - 8 町家の建替え支援
 - 9 雁木通りの街なみ形成支援
(検討中の制度)
- ・ 狭あい道路の拡幅支援
 - ・ 宅地の再開発支援



まちなか居住推進地区の認定制度

「まちづくり方針」を作成し、まちづくり活動に継続的に取り組む町内を「まちなか居住推進地区」に市が認定します
推進地区に対して、上記2～9の支援制度等による重点的な支援を実施します
上記1は地区の認定を受けなくても活用可能です

モデル地区 → 推進地区認定に向けた取組を進めましょう！

モデル地区以外の町内 → 今後どのように取り組めばよいか等、市が説明に伺いますのでご連絡ください！

何ないと市に
ご相談ください！

